

「明治150年」ヒアリングメモ

平成28年12月1日

筒井清忠

○ 「明治150年」を記念する意義について

〈基本的な考え方〉

◆ 明治維新の基本理念は「五箇条の御誓文」によって示されている。

- 1、 広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ
- 2、 上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フヘシ
- 3、 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス
- 4、 旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
- 5、 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

すなわち、①立憲主義・議会政治、②国民主義・民主主義（身分制を越えた発言権の称揚）、③人材登用（平等主義）、④進歩主義、⑤世界主義、が明確に宣言されたのである。

この理念により近代化に成功した日本はその後曲折を経て、現在のような世界の大国となった。その裏には、混迷の時期があったことも事実であるが、そうした点も踏まえつつ明治維新から150年が経つ今日、あらためて「五箇条の御誓文」に象徴される維新とそれに続く明治という時代の意義を振り返り、先人の業績を学ぶ中から新たな飛躍を期す機会にしていきたい。

〈明治時代の歴史的意義〉

◆ 1、 敗戦後の昭和天皇も新憲法を審議した吉田茂首相も「五箇条の御誓文」を日本のデモクラシーの基礎としているように、日本の民主政治は、戦後に新しく始まったものではない。それは「五箇条の御誓文」とそれに引き続く明治時代の憲法や議会政治の延長線上に存在するものである。だからこそ、日本に降伏を求めたポツダム宣言は日本における「民主主義的傾向の復活強化」と言ったのであり、また実際戦後の「民主化」も成功したのである。

（憲法と議会政治は当時アジア唯一のもので、ヨーロッパでも未導入の国があった。また、議会開設8年で衆議院多数党の政権が発足しているのも非常に早い。フランスでも革命後40年ほどの1830年のルイ・フィリップの自由主義的立憲君主制

ですら参政権者は人口比0, 6%弱であり、これに対し明治維新後20年ほどの最初の帝国議会での参政権者は人口比1, 1%強であった)。

明治時代の意義は何よりも維新のプロセスで明確になって来た「万機公論」の精神に基づく立憲主義・議会政治を確立したことにあり、これを顕彰し未来に遺すことは、私どもの使命とも言えよう。

- ◆ 2、次に明治時代の意義として挙げられるのは、幕末維新を経て明治政府が確立する過程において能力主義による人材登用が積極的に大々的になされたことである。それは今から見ると完全とはいえない面があるとしても、それ以前の時代に比べ、圧倒的なものであった。

第一次伊藤内閣の伊藤博文総理大臣は武士ではあるが「軽輩」の出であり、45歳というその年齢は未だに最若年総理として記録が破られていない。明治期に青年期を過ごした若槻礼次郎・田中義一・浜口雄幸らは昭和初期に総理となるがやはり「軽輩」の出身であり、それ以前の時代では考えられない人材登用であった。

また、榎本武揚・大鳥圭介・林董ら旧幕臣で明治政府に反抗した内戦指導者を起用・活躍させたこともこうした人材登用の一環といえよう。

津田梅子・山川捨松・永井繁子ら女性活躍の先駆者たちが岩倉使節団とともに渡米したことは名高い。

こうした適材適所の人材登用が大きくなされたことにより、各地で明治初期～中期に、さらに多くの人材が新たな道を自らの手で切り拓くことが可能となったのである。

その生涯がNHKテレビドラマともなった、明治の影に生きた男「石光真清」は、明治末期に友人が次のように言って死んでいったと書き残している。「いい時代だった。俺は明日死んでも悔いることはない、恨むこともない。考えてもみろ、御維新前だったら、俺は熊本の片田舎の貧乏百姓で一生暮さねばならんかったろう。貴様は武士の子だ、俺は百姓の子だ。貴様などと言ったらお手打ちになる……
・ (中略) この時代のためなら俺はよろこんで死ぬ。親爺もお袋も悦んでくれるだろう。貴様も祝ってくれ、わかったな」 (石光真清『望郷の歌』中公文庫)。

- ◆ 3、進歩主義・世界主義という点では、日本人がそもそも古来「取り入れの達人」であったことが特によくこの時代に活かされたといえよう。取り入れるべきものは取り入れる一方、合わないものは無理に取り入れようとはせず、日本の良さや伝統

を活かしていったのである。そして、そのことが、その後の技術・文化の発展、近代化につながったのだった。

ある意味で一番基礎的で重要な「言葉」を見ておこう。自然科学もそうだが、人文・社会科学の分野においてはとくに、西周（にしあまね）・福澤諭吉らが外国から学びつつ、外国語をそのまま使用するのではなく「演説」「競争」「経済」など巧みに翻訳語を作り出すことに成功した。これにより言葉という大きな障害がありながら近代化が極めてスムーズに行われたのである。それは、他のアジア諸国にも大きな影響を与えており、今日中国で使われている人文・社会科学用語の多くが日本語によるものであることは周知のことである（一説には七割という）。

また、「工学部」というもののステータスが欧米において非常に低かった明治前期に、日本では早くも帝国大学に工科大学（工学部）を設置しており（1886年）、そこから大量のテクノロジーの専門家が養成され技術的近代化に大きく貢献していった。ヨーロッパでは大学に工学部を設置することに立ち遅れた国も多く、それが後に「停滞」に結びついたケースも少なくない。

さらに、内務省の初代衛生局長であった長与専斎らの努力により、出生率は上昇し続け、衛生・栄養の状態の改善は著しく、新しい医学技術が積極的に取り入れられた結果、死亡率は低下していった。明治初期には約3300万人であった人口は明治末期には約5200万人と飛躍的に増加したのである。

西南戦争の際に佐野常民の作った博愛社が起源と言われる日本赤十字社は1886年の政府のジュネーブ条約調印により1887年に正式発足、1888年には磐梯山噴火の際世界初の平時救護を行うなど活発な医療救護活動を続けて今日に至っている。

明治時代は、まさに「取り入れの達人」の面目躍如の時代であったことが想起されるべきなのである。

- ◆ 4、「日本の良さや伝統」という点では、前時代の武士と庶民との双方がその「良さ」を表したのが明治時代であったとも言えよう。武士の家庭については、山川菊栄『武家の女性』（岩波文庫）・杉本鉞子（えつこ）『武士の娘』（ちくま文庫）などにその凜然とした姿が描かれているが、後者はアメリカで日本人初のベストセラーとなったもので、ニューヨーク・タイムズ紙から激賞され、世界7カ国で翻訳されたのであった。

また、江戸時代から続く庶民生活の心情は、ラフカディオ・ハーンの『日本の面

影』の中の「日本人の微笑」において「深く、静かにたたえられた水のように穏やか」なものとして描かれている。そして、泉鏡花の『婦系図』『歌行燈』などに代表される社会の下層に属するとされていた人たちの美しい心情は、新聞小説・歌舞伎・新派などの物語によく表わされ、庶民に好まれたのだった。

ハーンも言ったように、近代化とともに「水面には新しい文明の流れが注ぎ込み」いっそう深く入っていったのだが、それにも関わらずこうした日本人の「素晴らしい平静さ」は保たれており、このバランスが明治という時代の核心に秘められており、それを豊かにしたのである。

○ 「明治150年」に際して行うことが考えられるプロジェクトについて

【歴史的遺産関係】

- ◆ 明治にゆかりのある史跡（建築物等を含む）、歴史的資料は全国に点在しているが、体系的に整理したものは少なく、時が流れるままに埋もれてしまっているものも多い。そうしたものを調査・整理し、その結果を基に、各地方の史跡等の特別公開やシンポジウムの開催を行い、さらに、テーマごとに整理した図表やガイドを作成・提供すれば、「明治150年」に対する国民の関心・意識を大いに高めることになるであろう。

【女性・「青年」・地域・外国人】

- ◆ 明治時代の女性の活躍として、津田梅子ら留学生のことを採り上げたが、国内・地方で活躍した者も多い。例えば、熊本県の竹崎順子・徳富久子・横井つせ子・矢嶋楫子は「四賢婦人」と呼ばれるが、全国的に知られているとは必ずしも言えないであろう。

こうした地域で活躍した女性たちの実像をもっと積極的に紹介する必要がある、よい機会である。

また、薩摩や長州など政府の立場ではなかったためこれまで十分に知られてこなかった日本各地の「志士」や庶民の発掘が十分におこなわれるべきであろう。

「青年」は、小崎弘道が1880（明治13）年に、キリスト教系の「ヤングメン」の団体を作った時に訳語として作ったと言われており、明治10年代の終わりには徳富蘇峰らによって広められ多くの団体等ができていったものである。それら

は、維新が政治的変革ならば、精神的変革を第二維新としてやるべきだという主張であり、「天保の旧日本の老人」に「明治の新日本の青年」が対比されたのである。

後、1896年山本滝之助は『田舎青年』を書いて、地方青年の問題を提起するが、こうした明治期の「青年」の活躍の軌跡も現在は忘れられており、思い起こすのによい機会といえよう。

- ◆ 近代化の過程でお雇い外国人が果たした役割は大きく、国内外でそれにちなむ外国との交流イベントを開催することはもちろん、当時「辺境」とされた地域の実情の掘り起こしも行うべきであろう。

【明治期に関する制作・発信】

〈明治期文化の集積・展示〉

- ◆ 明治にゆかりのある文学、映画、演劇、絵画、書、音楽などの作品や、明治の様子を記録した写真などは、保存状態も悪く、収集・整理もなされていないことも多い。明治に関係する作品の収集・整理を行い、2018年には年間を通じて、明治をテーマとする映画上映会・展覧会・美術展・音楽会（唱歌、寮歌、書生歌等）などを各地で行うことが考えられる。

〈映画・アニメ・文学・マンガの制作〉

- ◆ 「クール・ジャパン」の代表といえ、マンガやアニメだが、それのみならず、明治期を主題とした、映画、テレビ番組、文学などの製作を支援することが考えられよう。

〈「明治維新史」・「明治150年史」の刊行〉

- ◆ 明治維新史については、研究者も少なく、研究環境にも恵まれていないことから、明確になっていない点も多い。この機会に集大成を考えるべきであろう。
- ◆ 明治期以来の日本近現代史を刊行することも考えられる。客観的・実証的な成果をまとめたバランスのとれたものとする。
- ◆ いずれも英訳を付すなどして、外国人にも触れる機会を提供するべきであろう。

以 上